

2026 年 8 月期 第 3 四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2026 年 7 月 15 日
上場取引所 東

上場会社名 株式会社 AFC-HD アムスライフサイエンス
コード番号 2927 URL <https://www.ams-life.co.jp/>
代表者 (役職名) 代表取締役会長 (氏名) 浅山 雄彦
問合せ先責任者 (役職名) 取締役会長室長 (氏名) 南方 茂穂 TEL 054-281-5238
配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無 : 無
決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2026 年 8 月期第 3 四半期の連結業績（2025 年 9 月 1 日～2026 年 5 月 31 日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026 年 8 月期第 3 四半期	25,279	2.2	1,800	△2.9	1,745	△6.6	1,166	△17.4
2025 年 8 月期第 3 四半期	24,737	10.7	1,853	23.9	1,868	23.4	1,412	53.1

(注 1) 2026 年 8 月期第 3 四半期 売上高 : 対前年同期比 102.2%
営業利益 : 対前年同期比 97.1%
経常利益 : 対前年同期比 93.4%
親会社株主に帰属する四半期純利益 : 対前年同期比 82.6%

(注 2) 包括利益 2026 年 8 月期第 3 四半期 1,228 百万円 (△15.1%) 2025 年 8 月期第 3 四半期 1,446 百万円 (66.0%)

	1 株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2026 年 8 月期第 3 四半期	80.82	—
2025 年 8 月期第 3 四半期	100.42	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1 株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2026 年 8 月期第 3 四半期	49,948	16,427	32.3	1,109.07
2025 年 8 月期	48,726	15,200	30.9	1,069.89

(参考) 自己資本 2026 年 8 月期第 3 四半期 16,147 百万円 2025 年 8 月期 15,075 百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第 1 四半期末	第 2 四半期末	第 3 四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025 年 8 月期	—	16.00	—	18.00	34.00
2026 年 8 月期	—	18.00	—		
2026 年 8 月期 (予想)				18.00	36.00

(注 1) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2026 年 8 月期の連結業績予想（2025 年 9 月 1 日～2026 年 8 月 31 日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1 株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	34,137	4.5	2,545	5.6	2,445	0.1	1,545	6.7	106.13

(注 1) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

(注 2) 2026 年 8 月期通期予想 売上高 : 対前期比 104.5%
営業利益 : 対前期比 105.6%
経常利益 : 対前期比 100.1%
親会社株主に帰属する当期純利益 : 対前期比 106.7%

※注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更：無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
 - ①会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
 - ②①以外の会計方針の変更：無
 - ③会計上の見積りの変更：無
 - ④修正再表示：無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2026 年 8 月期 3Q	14,559,699 株	2025 年 8 月期	14,391,199 株
② 期末自己株式数	2026 年 8 月期 3Q	94 株	2025 年 8 月期	300,094 株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2026 年 8 月期 3Q	14,431,510 株	2025 年 8 月期 3Q	14,065,459 株

※添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績の見通し等将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。なお、業績予想に関する事項は、添付資料 5 ページ「(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当四半期連結累計期間の経営成績の概況	2
(2) 当四半期連結累計期間の財政状態の概況	5
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	5
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
四半期連結損益計算書	8
第3四半期連結累計期間	8
四半期連結包括利益計算書	9
第3四半期連結累計期間	9
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(会計方針の変更に関する注記)	10
(セグメント情報等)	11
(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	12
(収益認識関係)	13

1. 経営成績等の概況

(1) 当四半期連結累計期間の経営成績の概況

当社企業集団は、当社の主体事業である健康食品・化粧品及び医薬品の製造販売事業の収益性・生産性の向上に努めると共に、新規事業として、不動産・建託事業に加え、観光事業（飲食事業を含む）を積極的に推進することで、これらの事業を当社企業集団の三本の柱に育てて行きたいと考えております。

このような方針の下、当社は、2024年7月29日付「ラビット急行株式会社の株式取得（グループ会社化）に関するお知らせ」において公表したとおり、静岡県西部で貸切バス事業、旅行業を展開しているラビット急行株式会社の全株式を取得し、同社をグループ会社化するに至っております。ラビット急行株式会社をグループ会社化することにより、当社企業集団は、バスの運転手が人員に加わるとともに32台のバスを保有することとなり、これらの経営資源を活かし、観光事業を展開して参ります。

また、観光事業をより発展させるべく、当社は、2025年5月30日付「AFC観光株式会社設立のお知らせ」において公表したとおり、AFC観光株式会社を新設致しました。同社設立の目的は、当社企業集団創業者である浅山永世名誉会長の「せっかく作られた富士山静岡空港を、日本の中心にある特性を活かして、多くの人々に利用される国際空港にしたい。羽田・セントレア空港に並ぶ国際便が行き交う空港にしたい。」という熱意を形にすることにあります。具体的には、富士山静岡空港の真下を新幹線が通っていることから、静岡空港新幹線駅を誘致すべく、関係各所に働きかけをして参りたいと考えております。また、富士山静岡空港の利便性を良くするため、上記のとおりM&Aで取得したバス事業会社を活用し、東日本・西日本の観光地を各1週間かけて観光する、日本一周夢のバスの旅を計画しております。今までご苦勞なされたご高齢者の終の思い出を作らせて頂きたいと心から願っております。

連結業績につきましては、好調を維持した医薬品事業が増収増益となったことに加え、ヘルスケア事業の増収等により、売上高は25,279百万円（前年同期比102.2%）となりました。利益面につきましては、営業利益は1,800百万円（前年同期比97.1%）、経常利益は1,745百万円（前年同期比93.4%）、親会社株主に帰属する四半期純利益は1,166百万円（前年同期比82.6%）となりました。

第4四半期は、医薬品事業における好調が続く見通しであることに加え、不動産・建託事業において中古住宅需要の高まりにより、取引が増加し、売上、利益の拡大を見込んでおります。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

（ヘルスケア事業）

・OEM部門

ドラッグストア等の店舗販売業の顧客における受注が好調に推移致しました。また、通信販売業の顧客における製品及びECモール向けの製品全般の受注も好調に推移致しました。営業体制においては、人材の採用・育成を中心に強化を図っております。

生産面においては、人材の有効活用、生産性の向上を目的として、2025年11月に打錠自動回収機の導入に続き、8月にPTP自動包装機の導入も予定しており、今後も省人化を推進して参ります。第4四半期においても引き続き、若手営業のレベルアップに取り組むと共に、生産面における省人化を図って参ります。

・自社製品販売部門

海外販売は、ハラル認証製品への切り替えに注力しております。また、体制強化に向け、営業スタッフを3名増員致しました。国内店舗販売は、外商企画催事への出店や測定会の実施等が売上に貢献致しました。通信販売は、機能性表示食品の販売に注力し、積極的な広告出稿等の結果、特にインターネット受注において定期購入数が順調に伸長し、売上が増加致しました。

以上の結果、ヘルスケア事業の業績は、売上高14,798百万円（前年同期比103.0%）、営業利益1,699百万円（前年同期比86.4%）となりました。第4四半期においては、海外販売での美容商材の受注が安定する見込みであると共に、通信販売における定期会員数の増加を図ることで、売上、利益の確保に努めます。

(医薬品事業)

医薬品市場は、大別して医師の処方箋に基づき病院・診療所、調剤薬局で購入する医療用医薬品市場と、医師の処方箋が要らず、薬局・薬店で購入する一般用医薬品市場に分けられ、両市場とも好調に推移致しました。特に、一般用医薬品のOEM受注が増加したほか、医療用医薬品については、重点販売製品として位置付けている自社製造、医療用ジェネリック医薬品『ピムロ顆粒』（下剤）、生活改善薬の医療用ジェネリック医薬品『シルデナフィル錠』『フィナステリド錠』『タダラフィル錠』が順調に売上を牽引致しました。

また、2024年4月より医療用漢方製剤の薬価が上がったことから、利益面において安定的に黒字が出せる体制となってきました。

以上の結果、医薬品事業の業績は、売上高1,887百万円（前年同期比102.8%）、営業利益230百万円（前年同期比154.5%）となりました。第4四半期においても、第3四半期までの好調要因が継続すると見込んでおり、更なる売上、利益を拡大させます。

(百貨店事業)

㈱さいか屋は、2023年8月期に9期ぶりに黒字に転換、2025年8月期まで3期連続の黒字でのV字回復を達成致しました。今期におきましては、「百貨店事業」「テナント事業」を重点的に推進すると共に、再生後の新たな企業価値向上に向け、「資本構造の健全化」及び「配当再開の検討」をさし示すべく「資本構造の見直し」を行っております。

資本構造の見直しにおいては、2月26日のさいか屋臨時株主総会にて決議した利益剰余金欠損の解消が5月20日に完了し、今期からさいか屋は配当が可能となり、今期末としてさいか屋は5円の配当を予定しております。また、2月6日公表「連結子会社株式会社さいか屋の第三者割当による新株式及び第1回新株予約権（行使価額修正条項付）の発行に関するお知らせ」のとおり、さいか屋は、当社とEVO FUNDに第三者割当を行い、収益構造の改善を可能とする資金を調達すると共に、新株予約権の行使により流通株式時価総額が増加することを見込んでおります。尚、6月16日にて新株予約権の行使は終了しております。

百貨店ゾーンにおきましては、横須賀店では、5月28日に「ラウンドワン さいか屋横須賀店」がオープンし、連日多くのお客様にご来店をいただいております。店舗内の回遊性が高まると共に、店舗内における滞在時間の延伸につながることが出来ました。また、藤沢店では「マツモトキヨシ さいか屋藤沢店」が7月10日にオープンしたことにより、来店客数の増加に伴う百貨店ゾーンの売上増加を見込んでおります。

以上の結果、百貨店事業の業績は、売上高3,504百万円（前年同期比100.0%）、営業利益46百万円（前年同期比85.5%）となりました。第4四半期においては、横須賀店の一部区画取得に伴う支払賃料の継続的な削減（年間4千万円超の固定費削減）、ラウンドワン出店に伴う賃料収入増加及び経費削減効果、藤沢店へのマツモトキヨシ出店に伴う賃料収入増加及び経費削減効果などにより売上・利益が増加することに加え、その大型テナント出店による来店客数増加に伴う百貨店ゾーンの売上・利益の増加を見込んでおります。

(飲食事業)

㈱なすびは、静岡県立美術館にて開催の企画展の好評により、美術館内の店舗「ロダンテラス」及び周辺店舗において、来客数が増加し、売上が拡大致しました。また、公共施設内で実施されるイベント等へのケータリング受注が好調を維持したほか、プレミアム食事券の販売が忘年会等の宴会需要の取込みにつながりました。2023年9月に、日本テレビ系列の番組「ヒューマングルメンタリー オモウマイ店」にて、ジャンボ海老フライ御膳等が紹介されて以来、「なすび総本店」は各メディア出演が増加し、ブランド力向上と集客につながっております。直近では5月12日にも同番組で紹介されました。また、新たに4月に開始した公共施設内におけるレストラン事業の受託運営は、安定した売上の確保に貢献しております。

㈱あさふじ厨's（旧社名：FSC㈱）は、うなぎ業態の店舗において集客力が高まり売上が増加致しました。また、5月20日に「うなぎと串揚げ 食彩房 あさふじ厨's 浜松駅前店」を新規出店致しました。

以上の結果、飲食事業の業績は、売上高1,913百万円（前年同期比107.5%）、営業利益12百万円（前年同期に比べ43百万円の改善）となりました。第4四半期においては、5月12日の「オモウマイ店」への3回目の出演による来客数の増加が見込まれるほか、うなぎの夏の需要増に合わせて、プロモーション施策の強化及び団体客の取込みに注力することで売上、利益の増加を図ります。

(不動産・建託事業)

2021年3月に㈱エーエフシー不動産（現：㈱AFCスマイル不動産）を、2021年10月に㈱AFC建設（現：㈱AFC建託）を新設し、2023年10月に不動産事業、建設事業を展開する県内企業をグループ化し、新たな体制を築きました。

自社に設計部門・特定建設業を構え、千葉工場の倉庫兼作業棟を建設したほか、受注から管理までのアパート建設、個人向けの注文住宅、リフォーム工事等の請負工事を受注致しました。一方、新築価格の高騰等の影響により中古住宅市場は活況にあり、中古戸建て・中古マンションの買取、販売が好調に推移致しました。また、主として不動産仲介及び買取再販事業を担う㈱AFCスマイルプラスにおいては、事業用不動産及び東海地域での相続や空き家に係る相談件数が増加傾向にある事に加え、全国的な成約金額上昇により仲介手数料及び買取再販売上が伸長致しました。更なる売上拡大に向け、2025年11月に新規オープンした東京・静岡・豊橋と共に既存の浜松の各支店が連携し本格的に稼働しております。

以上の結果、不動産・建託事業の業績は、売上高1,607百万円（前年同期比86.4%）、営業損失29百万円（前年同期に比べ66百万円の改善）となりました。第4四半期においては、アパート建設に加え、中古住宅需要の高まりは続く予想され、中古戸建て・中古マンションの買取、販売、仲介を強化することにより、売上、利益の拡大に努めます。

(2) 当四半期連結累計期間の財政状態の概況

(流動資産)

当第3四半期連結会計期間末における流動資産合計は、前連結会計年度末に比べ247百万円減少し、22,077百万円となりました。この減少要因は主として、原材料及び貯蔵品が598百万円、受取手形及び売掛金が540百万円、契約資産が222百万円増加した反面、現金及び預金が1,606百万円減少したことによるものであります。

(固定資産)

当第3四半期連結会計期間末における固定資産合計は、前連結会計年度末に比べ1,468百万円増加し、27,870百万円となりました。この増加要因は主として、無形固定資産がのれんの償却等により、137百万円減少した反面、有形固定資産の取得等により有形固定資産が1,174百万円、投資その他の資産が432百万円増加したことによるものであります。

(流動負債)

当第3四半期連結会計期間末における流動負債合計は、前連結会計年度末に比べ801百万円増加し、26,794百万円となりました。この増加要因は主として、未払法人税等が195百万円減少した反面、短期借入金が585百万円、契約負債が176百万円、1年内返済予定の長期借入金が142百万円、賞与引当金が129百万円増加したことによるものであります。

(固定負債)

当第3四半期連結会計期間末における固定負債合計は、前連結会計年度末に比べ807百万円減少し、6,726百万円となりました。この減少要因は主として、固定負債のその他が75百万円増加した反面、長期借入金が930百万円減少したことによるものであります。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は、前連結会計年度末に比べ1,227百万円増加し、16,427百万円となりました。この増加要因は主として、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上等により利益剰余金が650百万円、当社連結子会社である株式会社さいか屋の増資等に伴い非支配株主持分が155百万円増加、自己株式の処分等により自己株式が255百万円減少したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきまして、2026年4月14日の「通期連結業績予想の上方修正に関するお知らせ」で公表致しました通期の連結業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年8月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2026年5月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	11,303,492	9,697,054
受取手形及び売掛金	2,930,064	3,470,595
契約資産	13,077	235,090
商品及び製品	1,845,223	1,776,781
販売用不動産	2,312,911	2,382,626
仕掛品	1,240,402	1,387,989
原材料及び貯蔵品	1,624,115	2,222,342
その他	1,071,455	922,725
貸倒引当金	△15,667	△17,641
流動資産合計	22,325,077	22,077,563
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	7,144,546	8,598,991
土地	11,244,971	12,195,493
その他（純額）	2,946,466	1,715,517
有形固定資産合計	21,335,985	22,510,001
無形固定資産		
のれん	1,870,151	1,673,951
その他	148,765	206,991
無形固定資産合計	2,018,917	1,880,943
投資その他の資産		
その他	3,105,310	3,537,886
貸倒引当金	△58,376	△58,372
投資その他の資産合計	3,046,933	3,479,514
固定資産合計	26,401,835	27,870,459
資産合計	48,726,913	49,948,023
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3,623,087	3,656,943
短期借入金	9,472,879	10,057,879
1年内返済予定の長期借入金	8,964,611	9,106,666
未払法人税等	475,583	280,105
賞与引当金	197,241	326,725
契約負債	1,512,311	1,688,843
その他	1,746,850	1,677,076
流動負債合計	25,992,564	26,794,240
固定負債		
長期借入金	5,475,080	4,544,308
役員退職慰労引当金	327,626	363,271
退職給付に係る負債	686,708	698,303
その他	1,044,535	1,120,335
固定負債合計	7,533,950	6,726,218
負債合計	33,526,515	33,520,458

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年8月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2026年5月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,134,966	2,207,985
資本剰余金	2,651,225	2,697,037
利益剰余金	10,427,659	11,078,325
自己株式	△255,288	△78
株主資本合計	14,958,562	15,983,268
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	50,467	52,342
為替換算調整勘定	12,043	65,076
退職給付に係る調整累計額	54,791	46,961
その他の包括利益累計額合計	117,302	164,380
新株予約権	594	5
非支配株主持分	123,938	279,909
純資産合計	15,200,398	16,427,564
負債純資産合計	48,726,913	49,948,023

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年9月1日 至 2025年5月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年9月1日 至 2026年5月31日)
売上高	24,737,802	25,279,082
売上原価	16,243,413	16,421,318
売上総利益	8,494,388	8,857,764
販売費及び一般管理費	6,640,865	7,057,490
営業利益	1,853,522	1,800,273
営業外収益		
受取利息	6,172	7,186
受取配当金	6,252	7,583
受取賃貸料	17,662	21,178
投資有価証券売却益	9,291	20,509
補助金収入	33,932	—
固定資産受贈益	79,223	55,042
その他	49,110	56,146
営業外収益合計	201,645	167,647
営業外費用		
支払利息	142,834	185,283
その他	44,057	37,597
営業外費用合計	186,892	222,881
経常利益	1,868,275	1,745,039
特別利益		
固定資産売却益	1,036	5,368
債務免除益	268,092	—
新株予約権戻入益	782	—
受取保険金	—	23,623
その他	640	—
特別利益合計	270,551	28,991
特別損失		
固定資産売却損	3,764	1,367
固定資産除却損	13,234	4,151
火災損害等損失	875	—
事業構造改善費用	1,100	—
その他	8	—
特別損失合計	18,983	5,518
税金等調整前四半期純利益	2,119,843	1,768,512
法人税、住民税及び事業税	632,881	617,869
法人税等調整額	15,790	△29,381
法人税等合計	648,672	588,487
四半期純利益	1,471,171	1,180,024
非支配株主に帰属する四半期純利益	58,710	13,646
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,412,460	1,166,378

四半期連結包括利益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年9月1日 至 2025年5月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年9月1日 至 2026年5月31日)
四半期純利益	1,471,171	1,180,024
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	4,483	1,874
為替換算調整勘定	△22,974	54,162
退職給付に係る調整額	△5,748	△7,829
その他の包括利益合計	△24,239	48,207
四半期包括利益	1,446,931	1,228,231
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,388,220	1,206,145
非支配株主に係る四半期包括利益	58,710	22,086

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更に関する注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第3四半期連結累計期間(自 2024年9月1日 至 2025年5月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント							調整額 (注1)	四半期連結 財務諸表 計上額 (注2)
	ヘルス ケア事業	医薬品 事業	百貨店 事業	飲食事業	不動産・ 建託事業	その他 事業	計		
売上高									
外部顧客への 売上高	14,368,515	1,836,395	3,503,305	1,779,141	1,859,684	1,390,760	24,737,802	—	24,737,802
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	105,276	10,870	7,176	34,991	45,309	22,422	226,045	△226,045	—
計	14,473,791	1,847,265	3,510,481	1,814,133	1,904,993	1,413,182	24,963,847	△226,045	24,737,802
のれん償却額	—	—	68,558	62,920	42,070	45,056	218,606	—	218,606
セグメント利益又は 損失(△)	1,967,861	149,374	54,498	△31,505	△95,469	△131,715	1,913,043	△59,521	1,853,522

(注)

1. セグメント利益の調整額△59,521千円につきまして、現在、当社グループのTVCMを流しています。
これを含めた当社グループの広告宣伝費であります。

2. セグメント利益は、連結財務諸表の営業利益と調整を行っております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
(固定資産の減損損失)
該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)
該当事項はありません。

4. 報告セグメントの変更等に関する事項

報告セグメントごとの経営成績の管理手法を変更しており、各報告セグメントに配賦していない全社費用について計上区分を見直ししております。

また、前連結会計年度末より、「その他事業」に含まれていた「不動産・建託事業」について、量的な重要性が増したことから、報告セグメントとして記載する方法に変更しております。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間(自 2025年9月1日 至 2026年5月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント							調整額 (注1)	四半期連結 財務諸表 計上額 (注2)
	ヘルス ケア事業	医薬品 事業	百貨店 事業	飲食事業	不動産・ 建託事業	その他 事業	計		
売上高									
外部顧客への 売上高	14,798,512	1,887,097	3,504,893	1,913,392	1,607,650	1,567,535	25,279,082	—	25,279,082
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	128,354	13,172	10,862	42,609	19,431	23,007	237,439	△237,439	—
計	14,926,867	1,900,270	3,515,756	1,956,002	1,627,081	1,590,543	25,516,521	△237,439	25,279,082
のれん償却額	—	—	68,558	46,184	42,070	45,848	202,662	—	202,662
セグメント利益又は 損失(△)	1,699,599	230,722	46,606	12,412	△29,166	△131,116	1,829,058	△28,784	1,800,273

(注)

1. セグメント利益の調整額△28,784千円につきまして、現在、当社グループのTVCMを流しています。
これを含めた当社グループの広告宣伝費であります。

2. セグメント利益は、連結財務諸表の営業利益と調整を行っております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産の減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年9月1日 至 2025年5月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年9月1日 至 2026年5月31日)
減価償却費	823,598千円	875,009千円
のれん償却額	218,606千円	202,662千円

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

前第3四半期連結累計期間（自 2024年9月1日 至 2025年5月31日）

(単位：千円)

	報告セグメント						合計
	ヘルスケア 事業	医薬品事業	百貨店事業	飲食事業	不動産・建託 事業	その他事業	
売上高							
OEM部門	8,148,442	—	—	—	—	—	8,148,442
海外部門	3,347,993	—	—	—	—	—	3,347,993
自社製品販売部門	2,704,890	—	—	—	—	—	2,704,890
その他	167,189	1,836,395	3,484,829	1,779,141	1,697,889	1,390,760	10,356,204
顧客との契約から生じる収益	14,368,515	1,836,395	3,484,829	1,779,141	1,697,889	1,390,760	24,557,530
その他の収益	—	—	18,476	—	161,794	—	180,271
外部顧客への売上高	14,368,515	1,836,395	3,503,305	1,779,141	1,859,684	1,390,760	24,737,802

(注) 1. その他の収益は、「リース取引に関する会計基準」(企業会計基準第13号)に基づく不動産賃貸等であります。

2. 前連結会計年度末より、「その他事業」に含まれていた「不動産・建託事業」について、量的な重要性が増したことから、報告セグメントとして記載する方法に変更しております。

当第3四半期連結累計期間（自 2025年9月1日 至 2026年5月31日）

(単位：千円)

	報告セグメント						合計
	ヘルスケア 事業	医薬品事業	百貨店事業	飲食事業	不動産・建託 事業	その他事業	
売上高							
OEM部門	9,130,494	—	—	—	—	—	9,130,494
海外部門	2,428,640	—	—	—	—	—	2,428,640
自社製品販売部門	3,124,121	—	—	—	—	—	3,124,121
その他	115,255	1,887,097	2,864,935	1,913,392	1,396,803	1,567,535	9,745,020
顧客との契約から生じる収益	14,798,512	1,887,097	2,864,935	1,913,392	1,396,803	1,567,535	24,428,277
その他の収益	—	—	639,957	—	210,846	—	850,804
外部顧客への売上高	14,798,512	1,887,097	3,504,893	1,913,392	1,607,650	1,567,535	25,279,082

(注) その他の収益は、「リース取引に関する会計基準」(企業会計基準第13号)に基づく不動産賃貸等であります。